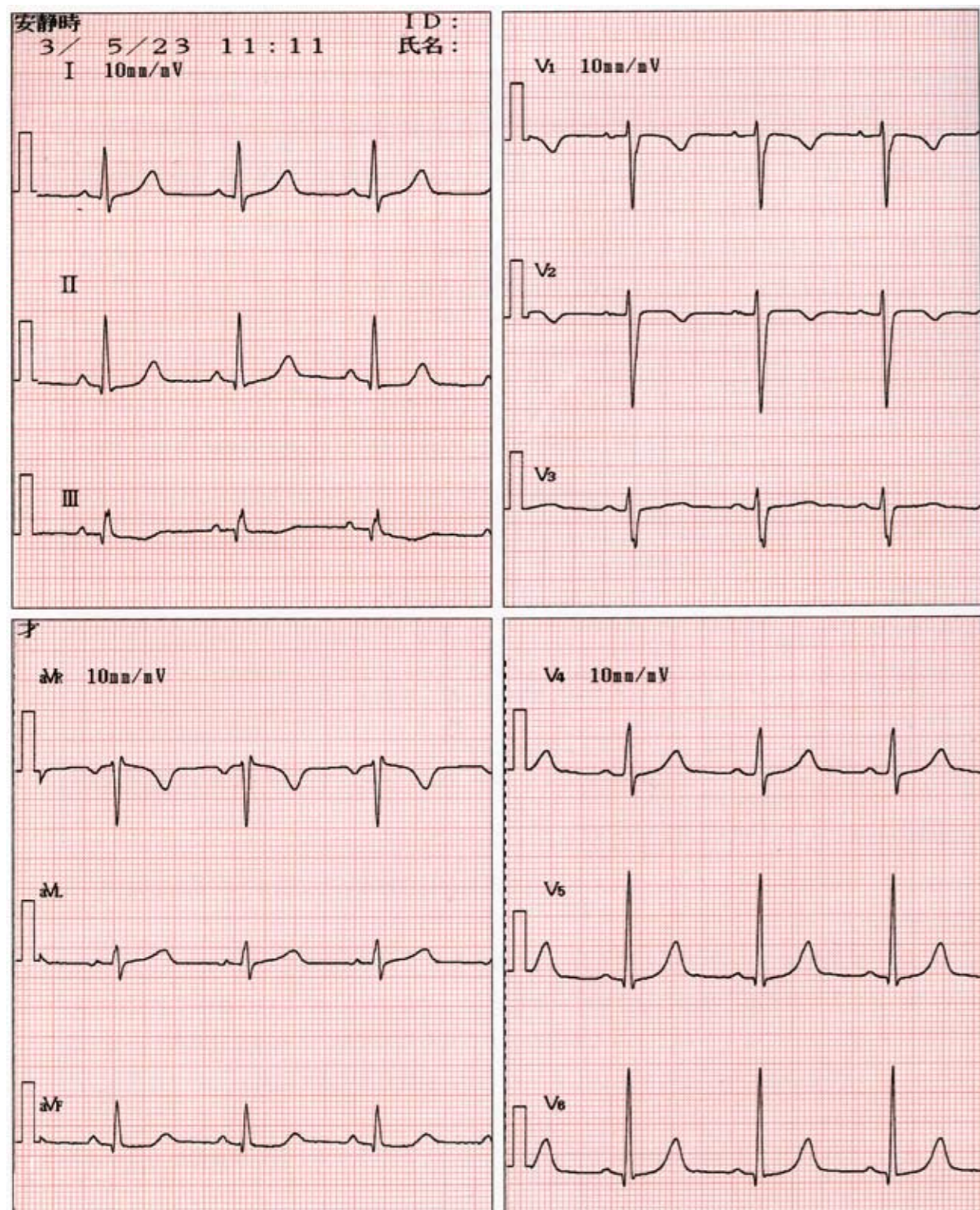


Q1

この心電図の心拍数は…

① 約 60 回 / 分 ② 約 70 回 / 分 ③ 約 80 回 / 分



GOCCIM

- ① **全体像** : すべての誘導で、きわめて規則正しく電気的興奮と回復を繰り返していることがわかります。
- ② **観察** : どこにも異常所見を発見することができません。
- ③ **考察** : 「13のチェックポイント」で心電図を見てみましょう。

① 校正波形	1 mV = 10 mm
② 心拍数	68 回 / 分 (心拍数の求め方は第 2 章「②心拍数」(p.41) で復習しましょう)
③ リズム	P-P = R-R
④ PR 間隔	0.15 秒
⑤ P 波	すべての誘導で 1 峰性。一番振れが大きい第 II 誘導の幅は 0.09 秒、高さは 2.0 mm です。V ₁ でも異常は見られません
⑥ QRS 群	幅は 0.09 秒。第 II, III, aV _f , V ₅ , V ₆ で 1 mm の正常範囲の q 波が見られます。R 波の高さは第 I 誘導で 9 mm, 第 II 誘導で 12 mm, V ₅ で 17 mm です。S 波は第 I 誘導で 2 mm, V ₁ ~ V ₄ でも正常範囲の S 波が見られます。V ₅ で 1 mm, V ₆ では R 波のみです。したがって正常範囲です。移行帯は V ₃ と V ₄ の間にあります
⑦ QT 間隔	すべての誘導で 0.45 秒以内であり、 少し延長 しています
⑧ 平均電気軸	第 I 誘導で +6 mm, 第 III 誘導で +4 mm です。これを電気軸シートに当てはめると +54° となり、正常範囲です
⑨ 胸部誘導における R 波の増高	V ₁ ~ V ₅ にかけてキレイに増高しています。R/S 比 ≧ 1.0 になっている部位は V ₃ と V ₄ の中間で、V ₁ ~ V ₃ までが右室側、V ₄ ~ V ₆ が左室側ということになります。異常所見はありません
⑩ 異常 Q 波	どこにも見当たりません
⑪ ST 部分	すべての誘導において上昇も下降も見られないため、正常です
⑫ T 波	aV _R 以外のすべての誘導で陽性になっており、高さは V ₅ ~ V ₆ で R 波の 1/2 から 1/8 の間にあるため、正常と考えられます
⑬ U 波	すべての誘導で著明な U 波は見られません

したがって、①~⑬を総合してみると異常所見が見られないところから**正常心電図**と判定できます。

- ④ **原因** : この症例は 28 歳の女性ですが、6 歳のときに「**動脈管開存**」の切断術を行いました。手術後の経過は順調で、毎年の定期検診でも異常は見られません。術後の聴診所見はまったく健常者と変わらず、心基部においても正常の **S₁ < S₂** の状態が保たれています。
- ⑤ **判読** : ここで各波形を単語として見てみましょう。第 I 誘導では「**P-R-S-T**」という語順になっています。13 のチェックポイントのところでも話しましたが、第 I 誘導で q 波が見られなくても、正常心電図と判定できるのです。また、少し QT 間隔が延長していますが、T 波の高さは R 波の 1/2 以下であり、U 波も見られないところから、低カリウム血症の可能性はきわめて低いと考えられます。人それぞれ顔が違うように、正常でもこういった心電図を示すことがあるのです。
- ⑥ **対応** : 術後は健康に経過していますから、年 2 回の検診でフォローすることでよいと考えられます。

解答 : ② 約 70 回 / 分

1章

2章

3章

4章

5章

● 50 症例に挑戦しよう